

浄泉寺報

第17号
2019年
お盆



お盆のお荘厳が整った浄泉寺本堂

弥陀の誓願不思議にたすけられ
まいらせて、往生をばとぐるな
りと信じて念仏もうさんとおも
いたつこころのおおるとき、す
なわち摂取不捨の利益にあずけ
しめたまうなり。

『歎異抄』

浄泉寺住職 望月廣三
第十四号からの続きです。

話を要約しますと、四人家族の
息子一家がゲリラ豪雨による土
砂崩れで全員亡くなります。その
ことを祖母が、「この世には神も
仏もないのか」と、私に食ってか
かるように烈しく訴えました。

私は言ったのです。それは神や
仏のせいではない、と。ましてや、
誰かのせいにすることもできな
い、そういう問題ではないのだ、
と。つまり、造成地に建てたこと
を誰かのせいにしたい、そうしな
いと腹の虫がおさまらない。こ
れが人間の弱さ、業ですね。

しかし、人は誰しもなにかに夢
中になるとき、成果とか好評とか
を求めて行動を起こすでしょう
か？ けっしてそんなことはしな
いでしょう。やらざるをえないか
らやる、それだけです。マイホー
ムを造成した丘に建てた祖母の
息子さんも、自分の家を持ちたい、

マイホームを築きたい、その一心
からだつたはずです。誰がそこに
家を建てたら悲運に泣くと予測
できたでしょうか。

すべては結果の問題です。私が
言いたいのはそこです。結果は大
切ですが、それがすべてではない。
人間にとって大切なことは「求め
る心」ではないでしょうか。結果
はあとから付いてくるものでし
ょう。

前号で私は「本当にあきらめら
れたら、救いだ」と言いました。
なぜか。つまり、仏教では「あき
らめる」ということは、あきらか
に見極めることだからです。山の
造成地にマイホームを建てたた
めに亡くなったのですが、死ぬこ
とを予測して建てたのではない、
わが家を持ちたいというその一
心から家を建て、その結果、悲
運に泣いたのです。それを誰のせ
いにできましようか？

(つづく)

浄泉寺からのお知らせ

● 盂蘭盆会 ●

本堂でのお盆のお勤めです。

ぜひお参りください。

八月十五日(木)午後二時〜

於：浄泉寺本堂

お勤め・住職法話

なお、本年は、若院夫婦の長男の
初参式(初参り)を盂蘭盆会に先駆
けて午後一時半から行います。

ぜひご一緒に参りください。

● 秋彼岸のお参り ●

九月のお彼岸の日程は、後日お葉書
にてお知らせします。

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催して
います。住職による法話の後、皆さ
んでお茶を飲みながら語り合いま
す。どなたでもお気軽にご参加いた
だけますので、ぜひ誘い合わせお
参りください。今後の日程等の問合
せは浄泉寺まで。

若坊守のひとりごと

六月に長男を出産しました。今回は陣痛から出産まで、五歳の娘も夫と立ち会ってくれました。怖がって泣いたりしないか心配しましたが、私が鬼の形相になっても動じず、最後は出てきた胎盤を前にして、へその緒を切っていました。

二回出産を経験して感じたのは、私の身体はいのちの「通過点」でしかないということでした。受精から出産まで、自力でコントロールできることはただの一つもなく、その瞬間まで、ただ生まれたといういのちの力にお任せするしかなかったように思います。

記憶こそありませんが、私達いのちは「生きる」ということを何の思惑もなくできていたのに、いつしか自我が芽生え、欲に苦悩し、生に執着し、業の炎で我が身が焼き尽くされていくのです。

昨年の自殺者数は年間約二万人だそうです。
いのちは誰のものでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ⑮ ～ 初参式(初参り) ～

今年の盂蘭盆会にあわせて、長男の初参式(はじめてのお参り)を勤めさせていただきます。赤子の「オギャー!」という産声は、まさにお釈迦さまが生まれてすぐに七歩歩いて「天上天下唯我独尊(わたしはわたしとして尊い)」と言われたとの言い伝えにつながるように思います。誰と比べる必要のない「まるごと」で「おまかせ」の世界から、そもそも私の人生ははじまったのです。

そして、命の誕生はそのまま「老・病・死」という我が身の事実を抱えて生きることのスタートでもあります。老いつつある身はすでにはじまり、縁が催せば病になり、やがて“すべての人は命を終える”という一点で、赤子もおじいちゃんおばあちゃんも平等です。

お盆は、亡くなった方の命を通して、我が身の事実を訪ねていく機縁でもあります。「お前も死ぬぞ」というお寺の掲示板の言葉が話題になりましたが、まさにそのことを私たちは教えていただくのでしょうか。亡くなった方は、長い短い、良い悪いを超えて、生まれた時と同じく「まるごと」で「おまかせ」の世界に還っていかれたのです。

暑い夏が続きます。計らいを超えてただ流れる汗と共に、まるごとの命と向き合い、人と生まれたことの意味をたずねたいと思います。

(浄泉寺若院・釋亜世)



長男・海度(かいと)

令和元年(2019年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成30年(2018年)亡
三回忌	平成29年(2017年)亡
七回忌	平成25年(2013年)亡
十三回忌	平成19年(2007年)亡
十七回忌	平成15年(2003年)亡
二十五回忌	平成7年(1995年)亡
三十三回忌	昭和62年(1987年)亡
五十回忌	昭和45年(1970年)亡

<発行元・問い合わせ>



眞宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>